雲州採薬記事

田籠　博

解題

本稿は山本良臣著『採薬記事』（杏雨書屋蔵）の翻刻である。本書は近世末期の出雲方言資料としてだけでなく出雲松江藩における医学史および周辺の国情を伝える史料としても興味深い文献である。著者山本良臣の事跡や所載方言の検討には別稿を用意し、ここには必要な限りでの解題を添えておく。

【書名】底本とした杏雨書屋蔵本は「雲藩医学館蔵」用箋を用いた縦二五・五cm、横一七・七cmで淡青色表紙の著者自筆稿本である。題箋に別筆で「雲藩　館良臣著／採薬記事」とあるのが本来の書名である。本稿では通行の便宜にしたがって「雲州採薬記事」と呼ぶ。巻頭に「巻一」とあるものの「巻二」以下は存しない。

【作者】享和三年（一八〇三）、医学教授のために松江藩に招聘された山本逸記（良克、礼夫、彰経）は、家塾（文化三年より存済館と称する）でその任にあたった。文政四年（一八二一）、本書の序言をものし、記事中で「家君、厳君、家厳」と呼ばれている安良（良阜、景岐、鶚寮）が跡を嗣ぎ、弘化三年（一八四六）一月八日に安良が「乱心自滅」（列士録）した後、泰淵（文化七年生か）が家を嗣いでいる。この泰淵がすなわち山本良臣にほかならない。

良臣は簡斎また氷川と号し、字を徴聖という。山本家では「館」の別姓を用いたから、本書におけるごとく

「館良臣」と名乗ることがある。没年は佐野正巳著『松江藩学芸史の研究』に天倫寺過去帳の「氷川院良臣徴聖居士　明治六年十月五日　山本鶚寮こと」という記事が引かれている。ただ「鶚寮」が父安良の号であるのは些か疑問である。

医学、本草学を京都の山本亡羊（世孺）に学び、亡羊講述の筆録本を多く残している。それが天保十三、四年頃の三年間であったことは本書の安良序言中に見えている。京都で学び得た本草学の知識を松江の地で実践した成果の記録が本書である。後年、二度四年にわたる江戸勤番で直指庵（第九代藩主斉貴）の御側医格として勤め、後に表医師上座に栄進するなど臨床医としても功績があった。

【内容】本書は天保十五年すなわち弘化元年（一八四四）四月一五日の望楽山から、弘化三年八月二八日の星神山までの二〇回（一回は中止、一回は記事なし）に及ぶ採薬行の記録である。最大三四名（第四回）もの一行が山野を跋渉して採集に携わるさまは壮挙というべく、第二回（この時は二八名）の挙行を本草学発展のために祝した安良序言に揚言するとおりである。

ただし、底本とした杏雨書屋本と今一つの伝本である岩瀬文庫本とでは記事内容が大幅に異なっている。後者には安良序言や漢詩類がすべて見えず、採薬記事も天保一五年六月一八日の宍道湖採薬（第七回）で終わって八月以降のものはない。さらに共通する部分についても相違が認められ、採集品の記事自体は同じだが、底本にのみ朱筆で和名あるいは方言名が書き込まれている。そのため岩瀬文庫本では五例（五語）にすぎない方言が、底本では三〇例（三一語）を数える。八月九日記事のように「方言下並仝」と方言名のみを示す例もある。方言資料としては杏雨書屋本によらなければならない。

岩瀬文庫本の巻末識語「雲州松江医学館教授／山本安暢識／後改諄大名良臣号氷川」については、良臣が「安暢」の名や「医学館教授」の称を用いた例はなくよく分からない。「後改諄大名良臣号氷川」の意味と併せてさらに調査を期したい。

なお、天保一五年九月五日の仁多郡採薬行に関しては「別ニ記行ノ在ルアレハ」として記事が省かれている。

国書総目録に載る山本良佐著『仁多郡採薬記』（村野文庫蔵）がこれに該当するかと思われるが、現在は所在不明である。

【伝本と成立時期】 右のとおり本書の伝本は、事実上、自筆稿本たる杏雨書屋本と岩瀬文庫本との二種に限られる。岩瀬文庫本の写本が国会図書館と杏雨書屋とにあり、前者は近世歴史資料集成第Ⅱ期第Ⅶ巻『採薬志（2）』（科学書院）に影印されている。

岩瀬文庫本は杏雨書屋本の単なる抄出本ではない。七回の採薬記事がまとまった時点で、手稿から私事にわたる序言や遊戯的な漢詩類を除いてまとめ、知友（恐らく師山本亡羊のもと）へ贈ったのが岩瀬文庫本であろう。『松江藩学芸史の研究』所載の岩瀬文庫本写真からわかるように、亡羊の書屋「読書室」銘の用箋に写されている。中間報告的なものと思われる。

杏雨書屋本は稿本ということもあって成立年は特定しがたい。巻頭の序言が成書に際して付されたものでないことは内容から明らかである。記事が弘化三年八月二八日で終わるから、それ以降と分かるだけである。岩瀬文庫本についても、識語の意味が不明なままでは成立年を特定できない。少なくとも、国書総目録などの記す天保一五年説は確実な根拠にもとづくものではない。

【翻刻方針】 翻刻は杏雨書屋本に忠実に従うことを心がけ、朱で訂正された個所は訂正本文を採った。そのほか次のような処置をとった。

① 原則として現行字体に従い、「シテ・コト・ト云」などを表す合字は元に戻す。濁点は底本のままとし、句読点は翻刻者の私意による。なお日付の「念」は二〇日の意。

② 割注で書かれた部分は、＜　＞の中にポイントを落とした一行書きとする。

③ 列挙された産物名は、一字空きの追い込みとし、底本に存する朱筆の和名・方言名は、原本における位置（下、左傍など）にかかわらず下に小字で示す。墨筆によるものは傍線を施して区別した。

④ 序言および記事中の漢詩類は頭を下げて掲げる。欄外に記されたものは、適当な個所に挿入した。
⑤ 改行は「／」で示し、翻刻者の注記は［　］内に記した。

閲覧と翻刻を許された武田科学振興財団杏雨書屋、および岩瀬文庫本の資料を貸与して本稿のきっかけを与えられた板坂耀子氏に謝意を表します。
本稿は平成八、九年度科学研究費助成金（基盤研究(c)(2)「近世本草書の方言記事に関する調査研究」による研究成果の一部である。

雲藩　館良臣著／採薬記事［題箋］

古体詩一篇、充採薬記事序言

山川倬詭古雲州、物産魁殊冠四陬、維昔汝彦経天下、宣薬療疾闡医流、草木之滋乃医薬、此間想先供採収、物換星移万千歳、無人鎌鍤事窮搜、劚苓尋木毫不解、奸詐長甘市家譸、百人百中思邈駁、暴棄終無負赧羞、嗚呼無眼医溢宇、内市家」序1オ　奸従憒々、錫餳莫弁橙柚混、鉤吻黄精枉瑕瓇、候潮去淘海金砂、就肆来呼米布袋、雞腿牛膝馬兜鈴、各各苦求雞馬隊、粗笨如此不自知、猶且飛輿四奔邁、胸中之墨雖乾枯、高弄銀匕装老態、吁医家頑陋止一身、疾家暗貽万人害、誰識吾家徴聖児、為此一朝発嘆慨、頓為官長察深衷、揄揚吹嘘拮据」序1ウ　在、遊京輙領恩命嘉、投袂于征客三歳、赭鞭之学就良師、枕警股錐極勉励、翩然帰来松江湄、弁物産業帯暁誨、吾願児業永不渝、以此卵育医家雛、経講方課須暇日、覓薬提携海嶠隅、鑒別薬材無訛錯、救恤痾瘵意相孚、上奉藩家如傷之、視民下副黔黎鉅、万之顚扶中俾志、存救済」序2オ　官署政益、昌益熾張一大規摸

天保十五年四月廿一日

本藩医学教授摂提挙事、美濃館良阜景岐／父、松江北甫里、得素巷賜宅之鶸寮書

良阜時患眼、不能揮灑。故労広沢三慶、写／之。三慶係大原耆宿人、寓于館塾。」序2ウ

［雲藩医学助教］簡斎館良臣徴聖　譔

採薬記事巻一

天保十五年、歳在甲辰之四月十五日。堀子直、北尾君美同伴。塾生小池文珉、石原元璋ヲ相具シテ島根郡望楽山ニ採

薬ス。此日連晴暄暖大ニ加ル。卯牌戒行シテ午牌登山ス。山ヲ龍翔、寺ヲ華蔵ト云フ。主僧、名ハ玄等、号ハ雲菴。予カ旧知識タルヲ以テ、入テ一室ヲカリ得テ休憩スルコト霎時ニシテ、出テ、深林幽渓ヲ穿テ採薬ス。蓋シ地甚タ広漠ニシテ一日其四隅ヲ極ルコト能ハス。因テ又寺ニ就テ各帰去ノ設ヲナス。禅師饗スルニ清餐ヲ以テス。侍欵甚篤シ。」

1オ　遂ニ謝ヲ陳テ帰路ニ上ル。既ニ申牌也。帰家スルハ殆ト初更トス。

家君有詩、記于左幅［上欄外書込］

堀北尾二侍医、延良臣児、採薬望楽山、賦之為贈

宇宙而来有此山、得君今日試幽攀、厓頭自著能言石、去問鑱雲幾客還

又

紫巌丹壁繞雲邦、異卉霊苗随処長、千載寥々採撷事、喜児陳力破天荒

図機活法曰、古楚荆之地、鮮有掇料第者、偶有選中者、謂之破天荒。

路上所見品物

扁蓄ニハヤナキ　酢醤カタバミクサ　山芥菜イヌカラシ　車前ヲホバコ　燕麦ナツノチヤヒキクサ　雀麦チヤヒキクサ　雀ノ茶引クサ　石龍芮タガラシ　毛茛馬ノアシカタ　狐ノ牡丹　巻耳ミヽナクサ　苦菜ノゲシ　黄奄菜ヲニタヒラコ　黄瓜菜ニガナ　雞児腸ヨメナ　青ハコベ　羊蹄ギシ〳〵方言大黄シンザイ　土大黄キフネタイワウ　蕷田蕷ナハシロイチコ　忍冬スイカツラ　椶木タラノキ　土牛膝イノコツチ　苦蕎麦ミゾヽハ方言カイルコクサ　繁縷ハコヘ方言ヒヅル　木防己ツヽラフシ　楙ウルシ　明開夜合コマユミ　菝葜サルトリイハラ方言マガタラ　風輪菜イヌカウジュ　芃蘭カヽイモ　猪殃ヤエムクラ方言ケンケラムシ　海桐花トヘラ」1ウ　櫧カシ　溲疏ウツキ　狼握草タウコン　カウガイグサ　椅イキリ　梓アカメカシハ　看麦娘スヽメノマクラ　紫雲英ケンケハナ方言ミヤコクサ　鼠モチ方言カハツバキ　瞿麦ナテシコ　ヒメワラビ　星宿菜ヌマトラノオ　薤ムツラレ　通泉草サキゴケ　崖椒イヌサンシヤウ　石龍芻コヒケ　苦蕎麦　女青ヘクソカツラ　虎杖イタトリ　墨記草イヌタラ　キジノ尾　地錦ツタ　羅漢松クサマキ　樸エノキ　三白草ハンケシヤウクサ　冬青モチ　ヒメハギ　素吾ツハフキ方言山ブキ　景天ヘンケイサウ　酸醤ハヽツキ　珠砂根マンリヨ　巻丹オニユリ　珠簪花トウキホウシ　菅カヤ　雞腸草カハラケ

ナ　野木瓜ムヘ　木通アケヒカツラ　瓜香草キンミツヒキ　シラヤマ菜　大蓼ゼンニンサウ　常春藤キツタ　山蕈薛ヲニトコロ　檉柳キヨリウ」2オ　茅チカヤ　盗人ハギヌスノ　野薔薇ノイハラ　イハシ骨　小雉尾草タチシノブ　サジグサ

望楽山所見

大戟タカトウタイ　菜葉山蕈薛ヲニトコロ　芹葉黄連　巻丹ヲニユリ　玉簪花トウキハウシ　薇（センマイ）及己フタリシツカ　虎杖イタドリ　紫葛カネフ　蛇莨草イヌイタトリ　油点草山ホトトキス　胡蝶花シヤカ　白花敗醤オトコメシ　アジサイ　山ウグヒス　山生天名精ヤフタハコ　チヤルメルサウ　蕎麦葉貝母カハユリ　珍珠菜トラノオ　モミヂサウ方言ソブナ　貫衆ヤマソテツ　石松ヒカケカツラ　菫菜コマノツメ　アタゴヾケ　ヤブマオ　沢蘭サハヒヨトリハナ　香茶菜キリツボ　木天蓼マタヽヒ　コハンノ木　山茶科リヤウフ　三ツ葉ツヽジ　山莎ヤマスケ」2ウ　山芹菜山コバウ　懸鉤子キイチコ　班杖ヘヒノ大八　シロヤマ菜　イヌボ　コガネワラヒ　胡蝶樹ヤマテマリ　ナヽカマド　重陽柳ミツヒキサウ　犬シデ　タウケシバ　野葛ツタウルシ　菜葉忍冬スイカヅラ　南五味子トロヽカツラ　百合サヽユリ　菝葜サルトリイハラ　山芥菜　イヌカラシ　ヌス人ハギ　万寿竹ホウチヤク　変豆菜馬ノミツハ　六月菜ノシユンキク　大薊山アサミ　刺楸ハリキリ方言大タラ　白棠子樹ヤフムラサキ　櫧カシ　鱸駝布袋ウクヒスノキ　金瘡小草キランサウ　連銭草カキトウシ　淫羊藿イカリサウ　カマツブシ　ツクバネ　万年青オモト　クロモジ　蔓青竜胆ツルリントウ　棠棣サイブリ　独活シヽウト　ウラ白ノ木　柃木シヤ〳〵キ　トガ　チゴユリ　柯シヒ　錦ゴロモ　絡石テイカヽツラ　槠木タラノキ」3オ　コンジノ木　旌節花マメフシ　萱草ワスレクサ　春オミナヘシ　雞腸草カハラケナ　三ツ手カグマ　風輪菜イヌカウジユ　寒ワラビ　アカソ　サジグサ　タカトウ　黄花繁縷ハコヘ　赤車使者クチナハシヤウコ　鳳尾草トラノオ　スヾラン　クワガタサウ　白花タツナミ　紫花タツナミ　匙頭菜シハイノスミレ　ジヤゴケ　鹿蹄草イチヤクサウ　高野ハヽキ　ナツハゼ　フクラ　瓜香草キンミツヒキ　秋ノキリンサウ　柞木イヌツケ　狐ノ尾　山柳ヤマネコヤナキ　黄精サル（マヽ）コユリ　小升麻　アカセウマ　茵芋ミヤマシキミ　萎蕤アマトコロ　ミノ米　イヨカヅラ　福王サウ　エビシヤウ　ムシカリ　莽草シキミ　女児菜山ムラサキ　紫珠コムラサキ　錦雞児花小ツクバネ　忍冬スイカツラ」3ウ　溲疏ウツキ　楊櫨タニウツキ　馬酔木アセボ　小葉秦皮トネリコ　野唐マツ　兎児傘ヤフレカサ　蔓梅モドキ　牡蒿オトコヨモキ　竜胆リントウ　百蕋草カ

ナヒキサウ　イヌシデ　榛槐イヌエンシュ　白朮オケラ　ムロノキ

四月念一日。天晴薄暑ナリ。意宇郡熊野ニ採薬ス。卯中牌出館ス。諸子ト南郊売豆紀（ミヅキ）神社境内ニ相会ス。蓋シ其随行ノ徒、秋庭良貞、高橋春常、林春民、伊藤杏仙、平山文礼、中沢秀圭、已上ハ医員倅。市医ニハ小篠昌栄、林柳栄、星野貞」4オ　白、大沢仁安、久保田玄設、山田清庵、中川玄意、足立寧一、尾添春齢、中溝玄丘、中溝啓斎、中山良宅、渡辺楊亭、高橋文会、伊達一斎、古川弁貞、建田円林、福島建中、小田半二郎、広沢三慶、和田文栄。予カ僕ヲ合シテ二十八人タリ。遂ニ彼枝村稲葉ニ至リ、農家ニ投シテ各々行厨ヲ弁ス。時午ナリ。本土下之社ニ詣拝ス。蓋シ藩城ヲ去テ南スルコト四里程ナリ。帰路ハ平原越ト云フニ就ク。但坂路ナリ。浜乃木村ニカヘルハ申牌ヲ過ク。高橋文会カ居、此々ニ在テ湖辺ニ臨ム。入テ休ス。饗スルニ酒魚ヲ以テス。館ニカヘルハ実ニ酉牌也。家君贈ラルヽニ詩ヲ以テセラル。左ニ記ス。

良臣採薬熊野山中、賦示兼警従游諸子

熊野南胆気鬱葱、由来物産譲殷充、不知汝彦」4ウ　採薬後、鎌鍤誰穿榛莽中
覓薬披雲秘訣存、如今一為泄家言、博知樹卉釣用品、期若書紳垂後昆
処々山川兼旁捜（試偏（朱））、真堪医裡一風流、儂有婆心切偲在、休将覓薬当盤游

所得之品

五加ウコキ　蕎麦葉貝母　キツネノ尾　小葉ノキツネノ尾　ミヅ　連銭草　榛　夏ハゼ　タウケシバ　萎蕤　蕷田
蕉　牛皮消イケマ　牡蒿　婆々枕頭ヘミノキ　小マユミ　野薔薇　問荊スキナ　黄瓜菜ニカナ　闘牛児ケンノセウコ
歪頭菜タニワタシ」5オ　寒苺フユイチコ　菜葉山蘭ヒヨトリハナ　雉ノ尾　天仙果イヌヒハ　鹿藿ノマメ　滁州夏枯草ウツホクサ　フクワウサウ　小巣菜ス、メノエントウ　二ツ葉サウ　崖椒イヌ山セウ　蛇眼草カナヒキサウ　金星草ヒトツハ
錦雞児花コツクハネ　山芥菜イカカラシ　星宿菜ヌマトラノオ　蛇苺クチナハイチコ　毛莨馬ノアシカタ　土常山クサギ
狐ノ牡丹　草アジサイ　苦蕎麦　楮カウソ　胡蝶花　蕭蓄　蔓梅モドキ　高野ハヽキ　ダモ方言タブ　地楊梅スヽメ

ノヤリ　苦参クラ、　四照花イツキ　石松ヒカケカツラ　薇センマイ　オニウコギ　蛇苔オヘヒイチコ　仏甲草マンネンクサ　水ウルシ　地錦ツタ　木防己ツヽラフシ　浸木アセホ　沢漆トウタイクサ　カウガイグサ　槲ハヽソ　小薊ノアサミコネソ」5ウ　重陽柳　紋股藍ツルアマチヤ　ヤブマオ　檜木　菫菜コマノツメ　驢駝布袋ウクヒスノキ　蔓生龍胆　イソノキ　瓜香草　耬斗菜オタマキ　綬草モシスリ　蛇葡萄ノフトウ　枸棘カラタチ　金絲梅　菝葜　蟲草コフナクサ　巻丹　柃木　毛蕨イノテ　山生天名精　膚木ヌルデ　女萎ホタンツル　女青　懸鉤子　ネヅミモチ　瓦葦ノキシノフ　盗人ハギ　イハシ骨　立ナミ　猪殃々　砂参ツリカネ人参　万寿竹　鳳尾草　ヒキヲコシ　木蓮　行者ブキ　野葛　紫花地丁スミレ　天名精ヤフタハコ　常春藤　カマツブシ　山柳　ネコハギ　珍珠菜」6オ　井口辺草ケイソクサウ　羅漢柏アスナロ　石葦カラヒトツハ　竊衣ノニンシン　雞腸草　ジヤゴケ　ヒメワラビ　ツルグミ　蛍ブクロ　アラガシ　イチゴツナギ　タカノツメ　鹿蹄草　南芥菜　山ウグヒス　紫荆　藍草　木槿　ノガラマツ　鬼針草　白屈菜　毛連菜　沢瀉　斉州骨砕補　金歓　黄連　剪春羅　水綿　水綿（重出）　珠砂根　金銭草　フヂナデシコ　桔梗　油点草　白頭翁　玉バヽキ　黄精　山アイ　山アヂサイ　スヾラン　小升麻　ヒメハギ　アタゴヾケ　狐ノチヤウチン」6ウ　獐牙菜　龍胆　ハンシヤウヅル　イガグサ　石防風　メヒイラギ　兎児傘　淫羊藿　ジヤバラゴケ　粉条児菜　六月雪　葛　カガク　山萆薢　蕕　山柳　鴉葱　百合　刺楸　青シデ　サハダチ　崖樓　及己　シラヤマ蘭チヽコシ　白花酢醤　苴　クワカタサウ　細葉秦皮　朱蘭　山芹菜　ヲホラン　馬先蒿　前胡　白朮　杜蒿　羅漢松　羅漢柏　ハマヒルガホ　蛇苔　チゴユリ　側柏　鉄掃帚　独活」7オ　カライチゴ　旋花　土牛膝　烏頭　ヒメヒバ　蘿摩　大カクマ　紫珠　珍珠花　麻葉繡毬　藤繡毬　懐槐　白花敗醤　石龍芻　莞　シラハシノキ　棣棠　蓬子菜　接骨木　笑靨花　秋海棠　萩　升麻　狗舌草　雞眼草　行者ブキ　細葉砂参　南五味　旌節花　天南星　黄瑞香　茅　罌子桐　山蒜　猪殃々　黄花蘩縷

四月念八日。梅雨且収リ天新晴ナルヲ喜フ。秋鹿郡古浦（コウラ）ニ採薬セントス。北尾君美、堀子直ト約ヲ訂ス。蓋シ子直ハ病メリ。早々人ヲ馳セ此事ヲ以テ辞ス。妹尾君恭、梅香雪、星野瑞謙、金森見貞、小池文珉モ亦随行ス。卯中刻行装

既ニ成、以テ発館ス。道ヲ生駒(イクマ)村ニ取ル。午前彼土ニ至ル。此ニシテ藩城ヲ距ルコト三里程トス。農家ニ投シテ各々休憩シ且行厨ヲ弁ス。下哺彼土ヲ辞ス。道ハ則浜佐陀田村ニ従フ。館ニ帰ルハ夜既ニ二鼓也。家君復詩ヲ以テ贈ラル。

送北妹二尾、同良臣、採薬秋鹿

大江分派串沙陀、一脉清流暖緑波、君去試看隄上路、異莠蘆鬱不勝多

異莠蘆鬱不勝多、宿雨新晴々景和、羨見君兼観海」8オ　興、遥追古浦恵曇過

遥追古浦恵曇過、興激応傾金叵羅、覓薬往還途髪直、一行人影落川波

良臣曰、古浦江角浦則地為隣並、本国風土記江角書恵曇、家君取此字於彼也、江角訓曰依須美。

薬品　路上

地楊梅ス、メノヤリ　綟木ネヂノキ方言サルスベリ　萎陵菜カハラザイコ　馬鞭草クマツ、ラ　水萵苣カハチシヤ　馬先蒿シホカマギク　唐棣ザイブリ　蒼朮ヲケラ　滁州夏枯草ウツホクサ　木防己ツ、ラフジ　白屈菜クサノオー(ママ)　胡蝶花シヤカ錦雞児花コツクバネ　蛇牀子ハマニンシン　香茶菜キリツボ」8ウ　千金藤ハスノハカツラ　嬰奠エビツル　牛屈菜ミソハキ海州常山クサギ　藎草コフナクサ　天茄児イネハ、ツキ　半辺蓮ミソカクシ　杞柳コリヤナギ　鴨跖草アホバナ方言カマヅカ蕺菜トクタミ　百脉根ミヤコバナ　毛蕨イノテ　鹿蹄草イチヤクサウ　風輪菜犬カウシユ　薇センマイ　星宿菜シラハキ天名清ヤフタハコ　鬼針草センタンクサ　珍珠菜トラノオ　蔓生龍胆ツルリントウ　沢蘭サハヒヨトリハナ　水蠟樹イホタ竊衣ノニンシン　萎蕤デマナ　旋復花ヲクルマ　問荊スギナ　枸児菜カンクヒサウ　牛尾菜シホテ　鉄掃帚メトハギ　侵木アセホ　巻耳ミ、ナクサ　蕭蓄ニハヤナキ　石胡荽チトメクサ方言ヂシバリ」9オ　雞児腸ヨメナ　山芥菜イヌカラシ　雀麦チヤヒキクサ　燕麦ナツノチヤヒキクサ　三白草ハンケセウクサ　瓜香草キンミツヒキ　鹿藿タンキリマメ　括蔞キカラスウリ海桐花トベラ　子雉尾草タチシノフ　メノマン年クサ　ノカラ松　サジクサ　盗人ハギ　高野ハ、キ　オトキリサウタカノツメ　キヒヨトリシヤウゴ

古浦産

稊クロヒエ　浜イチヤウ　葎草カナムクラ　水落藜ハマイチヤウ　蔕草カウハウムキ　扛板帰イシミカハ　牛皮消イケマ

女青ヘクソカツラ　水松ミル　雉ノ尾　車前一種　南芥菜ハタサホ」9ウ　裾帯菜メノハ　海サウメン　扁螺セヽカイ
エエモ　ハマサクラ　ヌノヒキ　ミセンキク　薇　ハマビハ

五月初九日。時梅天ニシテ連日鬱陶、或ハ雨フル。本日亦然リ。島根郡水浦ニ採薬ス。路小倉邨、上講武村ヨリス。諸生相随フモノ三十名。予ト僕ト担夫二人トヲ合シテ三十四名トス。秋庭良貞、高橋春常、田代文泰、祖田立益、熊谷文慶、平山文礼、伊藤杏仙、伊藤杏山、中沢秀圭、坂根春生〈已上ハ医員倅タリ〉、中川玄意、星野貞白、渡辺楊亭、天野文理、中溝玄丘、安立寧一、竹谷達美、和田文栄、高橋俊昌、中山良宅、錦織顕良、福島健中、高橋文会、井川久太郎、中塚光次郎、坪内春洞、」10ォ　古川弁貞、佐々木文齢、木村玄碩、長廻良察、是也。彼土ニ至リテ、行厨ヲヒラキ弁ス。刻未夕午ニ早シ。蓋シ帰路ハ則チ其枝村室津ト云フヨリ名分村ニ超ユ。山路崎嶇タリ。遂ニ南講武村ニ出、生駒、比津、春日、諸邨ヲ経テ帰舘ス。日未夕晩レズ。今日往復路程計ルニ凡ソ七里許也。

家君詩ヲ贈ラル。左幅ニ記ス。[上欄外書込]

良臣以五月初九日、携草学諸生、経小廩講武抵御津浦。賦此為贈。

此行往返概六七里矣。

講武宜経小廩行、孤峯断嶂作邀迎、青衿想見相周護、一路薫風杖履軽
一路薫風杖履軽、山阿或見杜鵑声、也知詩句相吟味、忘却崎嶇数十程
忘却崎嶇数十程、及投盈浦始塗平、活鱗弁得盤中躍、咄々行厨命割烹
咄々行厨命割烹、枯腸久闊潤初生、海鱗活発諸最夥、他異三波安治并
他異三波安治并、午餐陪奉又盃傾、閲草了非行楽事、往還相警擷菁々

所採品　往返路上

雀翹ウナキヅル　地瓜児シロネ　牡蒿　龍胆　瓜香草　膚木　遠志　蓋草　羊乳ツルシヤジン　細葉巻丹　山黒豆　蕘
花キガンピ　白楊　山芹菜　鬼針草」10ウ　黄花菜　百合　三白草　茵芋ミヤマシキミ　瓦葦　山芹菜（重出）　菝葜　滁州夏

枯草　鶏児腸　女青　沢蘭　大葉麦門冬　胡枝花ハギ　柳葉菜アカバナ　山梨児キタチノイビツイバラ　蒼朮　白朮
紫花地丁　柞ツゲ　劉寄奴　油点草　嫠奠　兎児傘　蔓生天門冬　莢蓬　萩カハラハヽコ　大葉劉寄奴クサビヤウ　木
通　風輪菜　山蘭　絡石テイカヽツラ　鹿藿　合歓木」11ォ　珍珠菜　毛莨　敗醤白花　酢醤　鉄掃帚　落新婦アカシ
ヤウマ　大戟　井口辺草　大蓼　吉祥草　星宿菜　槲木タラノキ　括蔞　枸児菜　蕺菜　欅　麻アサ　蘭草フジハカマ
三陵ミクリ　百脉根　薷薇　苦参　瞿麦　積雪草ツボクサ　灯心草　雞眼草　綬草シンコバナ　細葉地瓜児　石蓋ハナ
ゴケ　菫菜　野木瓜　重陽柳ミヅヒキサウ　狼把草タウコン」11ウ　著ハコロモサウ方言ノコギリサウ　女貞　海金砂スナク
サ　白棠子樹ヤブムラサキ　海州骨砕補シノブ　メノ万年クサ　サジクサ　龍脳キク　ヒメオトキリサウ　カウガイ
クサ　秋ノハヽコクサ　ツル梅モドキ　クハトウラン　盗人ハギ　アタゴヾケ　ワクラ　山アジサイ　タカノツメ
イチゴツナギ　ネコハギ　コガク　イヌカウジユ　高野バヽキ　ツルグミ　シラヤマギク　スヾラン　チヽコシ
三ツ葉ツヽジ　ヲランタチシヤ圃栽　ホタル袋　センプリ　ムカデクサ　七葉ノ河原サイコ」12ォ　キツネノオ　ヒ
キオコシ　秋ノキリンサウ　ノガラマツ　水鼈ドチカヾミ

水浦産

海胆ウニ方言ガゼ　相思螺カラクモ　アラメ清商黒菜ト名ク　海燕一種クモ人手　水落藜　苦蕺テフセンホヽツキ　馬尾
藻ホンダワラ方言神馬草サウシ　茵陳蒿カハラヨモキ　蔓生天門冬スマロクサ　ベヽガイ　寄居虫ガウナ　ヤドカリ　水松ミル　ウ
ミソウメン　イトマキ人手　海燕タコノマクラ一種ナリ　海胆一種方言オニガゼ」12ウ

五月十三日。天陰不晴。未刻後ヨリ家君ニ陪従シテ、中沢秀圭、福島建中、高橋文会、小池文珉等ト同ク、城東、川津、市成辺ニ游行採薬ス。其帰路ハ歩月ス。館ニカエルハ刻初更ニ近シ。

薬品

剪刀股　合明草　雞眼草　預知子　苦菜　羊蹄　車前　蚕繭草　蔦蓄　蘆草　蕎麦葉貝母　水錦　酢醤　紫雲英
燕麦　狼把草　青萍　雞児腸　三白草　薜草　巻耳」13ォ　燈心　問荊　山芥菜　旋花　欅　女青　血槠　苦菜

樟　胡豆　土牛膝　荪蓂　石胡荽　繁縷　黄奄菜　千屈菜　風輪菜　蕺菜　麻葉繡毬　滁州夏枯草　萘菜園圃　唐
棣　山決明　莢蓯　八角金盤園中　毛連菜　兜櫨樹　茅　小雉尾草　木防己　毛莨　膚木　天仙果」13ウ　柃木　劉
奇生　鹿藿　馬歯莧　山蒜　蕎田蕉　爵牀　楝　柞木　雞桑　芃蘭　横目　地瓜児　漆姑菜　アラカシ　山ハツカ
ヤクシサウ　三ツデガクマ　ヒキヲコシ　雉ノ尾　ムカデグサ　ヒメワラビ　イヨカヅラ　キツネノ牡丹　青ハコ
ベ　ヒエガエリ　雀ノ茶挽クサ　ヒメスゲ　マサギ　クロキトウ

路上口号」14オ

黄梅時節値連晴、覓薬郊坰数十程、一瓢濁酒且傾尽、帰路風飄吟袖軽
微酔潮時落照紅、遥村一桁晩烟篭、歴尽陂陀榛莽路、復追湖月与林風

録小池文珉之詩〔上欄外書込〕

随師鎌鍤手相携、覓薬駱峯騾嶂西、帰路欣添一事適、酣歌践月歩江堤

録高橋文会之詩

不向孤峯断嶂攀、郊原十里冒榛菅、陪遊兼似沂雲興、諷詠江湾蹈月還

次春熙韵　良阜

皐皮迨暇相提携、覓薬回翔東復西、帰笻贏得佳風月、瀲々江波十里堤

次文会韵

畳巘攢峯幾箇攀、忽生新意払郊菅、跟奴敢進班荊酒、月上匏尊未肯還

二首文不加点筆、不停綴未知中同調之意否、他日当改竄耳。

六月初五日。天陰蒸溽近。午天乍チ晴ルニ値フ。意宇郡玉造ヨリ大谷ニ採薬セントス。厳君ニ陪従シ諸子ヲ相携テ行ク。其徒ハ秋庭良貞、林春民、中沢秀圭、石井良収、福島健中、渡辺楊亭、古川弁貞、恩田玄教、加藤右元、竹谷達

美、広沢三慶、中山良宅、清水友信等ナリ。厳君、並ニ良臣、僕夫ヲ合シテ十有七人トス。蓋シ本日早天館ヲ発出ス。道ハ則チ野白（ノシラ）、福冨（フクトミ）、忌部（イムベ）ヨリス。玉造ニ抵ルハ日未タ天ニ中セス。此々ニシテ逆旅〈湯之助ト通称ス〉」14ウ　ニ投シテ各々行厨ヲ啓キ、尚且休憩スルコト一食時。復タ出テ、大谷ニ抵ル〈本地藩城ヲ距ルコト三里程半ト云〉。終ニ反顧シテ、旧路ニ就テ玉造ニ帰ル。未ノ上刻トス。再ヒ小憩シ花泉山〈花泉山ハ即チ玉造所帯ニシテ、旧ク玉石ヲ産スト云コト国籍ニ記載スル所ナリ〉ニ登躋シテ玉石ヲ探索ス。蓋シ厘々得トコロノモノアリ。終ニ山ヲ北位藤名（フジナ）村ニ下リ野白、乃木（ノギ）等ヲヘテ帰館ス。殆ント初更也。厳君詩アリ。以テ贈トセラル。左幅ニ之ヲ記載ス。

良臣児、携医学生徒、遊于湯山〈常言玉造〉。賦此以示。

携徒知爾陟華泉〈湯山一名〉、的是梅霖蒸溽天、披榛覓薬聞蘇語、親賭如今感勉旃
華泉本自玉攸生、山下村揚玉作名、上世雲邦貢寿玉、此山関繋要非軽」15オ
覓薬西東又北南、生徒物産漸詳諳、不必茸々与鬱々、無金無玉課窮探
華泉之麓湧湯泉、人道神湯無比泉、我雲恨処山陰僻、抂墜常々汎々泉
地有温泉民俗稠、登山臨水好風流、看爾冠童携五六、逍遥或似浴沂遊
渓流一綫響潺湲、直源源頭十里慳、相引好追薫吹去、嶮峨終踰和寧山
和寧佳産称蒟蒻、蕉翁絶嗜儂相若、帰時訂爾議帰遺、凍子齎来不他索

良臣曰、本日之行、蓋以自玉造、経大谷抵和奈佐、既訂」15ウ　期約矣。而今的抵于大谷、止行者時則、盛夏炎暑赫爍、行歩非所為易。諸子亦皆告疲労。故枉而遏行、以不能報其宿約為恨。再遊可期矣。但和奈佐、南距大谷復為二十許程也。又曰、厳君詩中謂和寧山者、則為和奈佐之換辞。観者宜須識焉也。

所得之物品

海桐花　水蠟樹　蛇莓草　土牛膝　木防己　合子草ゴキヅル　臭梧桐クサギ　蔦竹　括蔞キカラスウリ　小薊　井口辺草　馬棘コマツナギ　紫珠コムラサキ　柞木　三白草」16オ　珍珠菜　風輪菜　懸鉤子キイチゴ　野苧　山芹菜　鴨跖草アホバナ　綬草モジヅリ　敗醤　毛莨　柯シイ　胡子花ハギ　蒼朮　蓬蘖クサイチゴ　竜胆　柃木　油点草　錦鶏児

花　天仙果　紫萁ゼンマイ　費菜園中キリンサウ　雞児腸　黄蜀葵　石胡荽　麻　問荊　蕎麦葉貝母　桃葉珊瑚アヲキ　百脉根　黄花繁縷コナスビ　毛連菜　雞眼草　星宿菜　女青」16ウ　溲疏　沙参　天名精　莞ツクモ　狼把草　灯心草　珍珠花イハヤナキ　花楸樹ニガキ　夏枯草滁州　蔓生龍胆　明開夜合小マユミ　小雉尾草　海金沙　地膚　茜草　大蓼　南五味　水竹葉イボクサ　莪蒁　廪蒿キツネアザミ　枸児菜ガンクビサウ　積雪草ユキノシタ　山柳　菫菜　半辺連アゼムシロ　通草　野木瓜トキハアケビ　雀翹ウナキヅル　鹿藿　山黒豆　鼠菜草タムラサウ　紋股藍　倒掛草イヌワラビ」17オ　猿莚花タニワタシ　山躑躅ツヽジ　樗ゴンズイ　遠志　蛇莟　稀クロビエ　黄奄菜　白屈菜　沙羅樹タラヨウ　蘆草　山蘭　狗骨ヒヽラギ　女萎　秋牡丹キブネギク　合歓木方言カヽノキ　金絲桃ビヤウヤナギ　蒴藋ツチ人ガタ　柳葉菜　羊蹄　横目カウライシバ　石蓋ハナゴケ　蓐草ナギ　四照花　松蘿サルヲガセ　赤楊ハリノキ　女児茶ヤマムラサキ　竊衣　爵牀イヌカウジュ　蘆草一種　前胡　カウガイクサ　クロガネモチ　クロキトウ」17ウ　ヲヒジハ　山サギサウ　山ハツカ　ハイドクサウ　キジノ尾　花イカダ　アカソ　山アジサイ　ヒメワラビ　イノキサウ　ニガイチゴ　イヨカヅラ　タカノツメ　ジヤバラゴケ　雀ノカタビラ　ネコハギ　リウ脳ギク　錦ゴロモ　トウケシバ　白ダモ　ヤブソテツ　サジグサ　秋ノキリンサウ　秋グミ　キヤラ木　イヌボ」18オ

六月十八日。挈、塾生小池春熙〈文珉〉、奉家厳鶚寮先生、採水草于大湖上〈俗称宍道湖（シンジノウミ）〉。此行也。井川長濬〈同察〉、請為之主、以故舴艋也。篙手也。酒肉之供也。彼一菅之則一従、彼之処置亭。午、舟発甫里之館〈甫里通称北堀〉、抵新橋下要。中山良宅不在。出圯橋〈通称土橋〉之閘〈通称水門〉、而達波頭〈波頭俗語、蓋謂泊舟之所為波頭〉。長濬同、中塚元三、光二、倭焉渠就搭之他如泛。従遊諸子医員倅、秋庭良貞、林春民、坂根春生、軽舸一艘。石井良収、大沢仁安、中溝玄丘、渡辺楊亭、井上春台、亦復一艘。各自随便、後先逐来合筭。家嚴及予、従遊生徒、篙手、跟奴得一十七名。三舟相率徐刺乎。北岸下経堂付、荒隈、天倫寺鼻〈鼻漢曰觜是也〉、遂入別湖〈是大湖之匯為湖者。地入浜佐陀。故俗称曰浜佐陀潟之内。蓋潟即湖潟之内。猶曰内湖。若夫別湖、乃家厳所命云〉。別湖之為状、亦灝渟泓濶〈瀚〉、不可端倪。」18ウ　而東西二浸、厥名無異。吾舟皷棹、東泛西浮、二舟従之。歴閲水草者最矣。独憾別湖絶深、其最者要不下数十尋。撒網所不

得、敢施以故水草有在也。亦絶寡尠、未如之何也已〈採得品目註于左方、此不多贅〉。本日天陰、雲布、東風送涼雖、有時乎雨不至礙。乃公之事、加以蘊隆之少弛其権。一行相慶曰、佳矣哉、期也得矣哉、時也。使我兼試河朔之遊、亦一大幸矣。還舟抵浜沙陀之厓頭、戚之林樾涼処近側、各弁行厨。且開小酌、諷詠互発。野興可喜也。薄晩相訂、帰棹際是時也。雲幙冒天風稍々、猛雨亦差臻。篙手之労可想。既別于二舟、吾舟尋着旧波頭。長濬輩、上陸辞去。舟進抵于甫里舎。舟」19オ　而徒遣返篙手入館。問刻鼓未打五云。

良臣―率諸子船泛大湖採擷水草、余亦搭焉。

艣出新橋夏景明、薫風颯々葛衣軽、湖天上下同一碧、人在琉璃瓶内行〈新橋々名与漢土松江者偶合〉

天倫已北石厓連、中有厓齦湧古泉、停艣挹泉移棹去、行厨冉々起茶烟〈天倫寺名枕湖占勝石泉、通称阿奈水〉

大湖平浸四周山、艣坐波光樹影間、水風滌暑没微熱、誰憶西呉銷夏湾〈浜沙田岸下、維舟披襟飛觴〉

孤棹揺々入別湖、人探水草逓相扶、此間足続史游述、菱芡蒲芦蒲苦菰〈別湖俗称潟之内〉

将帰又着前憩処、一行相訂尽醉去、野人邀我網」19ウ　新鮮、岸上舟中争下箸〈鯔魚、鰻鱺、小鰕、入網〉

湖山風悪晴雨倏、乍螺乍練不勝録、天公罷我要我披、三十年前旧画幅

良皐、嘗赴田文達湖楼之招。有詩曰

江嶂乍晴還乍雨、青螺白練幾披入、都来数幅天然画、酷慰登楼賦客眸

距今三十年矣。即日、湖山光景、殆与之同所以云々。

又曰、我松人平日游賞所駕小舟、名為比良駄。検之漢字、艣字当此。今詩之用艣者、為是故已。案艣与艇、字音韵雖異、其義実同。艣作艇看為可。」20オ

所採得草類

水鱉　荇菜　睡蓮　馬藻　眼子菜　金銀蓮　聚藻　苦草　龍舌草　水錦　菰　蒲　芰　芦　荻　タヌキモ　無名草　蓊草」20ウ

［岩瀬文庫本識語］雲州松江医学館教授／山本安暢識／後改諄大名良臣号氷川

八月初九日。島根郡上宇部尾（カミウビヤウ）ニ採薬ス。此日連陰猶晴レス、且ツ或ハ雨ル。於是諸子ト行止如何スヘキコトヲ謀ル。各々決定スルモノアルコトナシ。蓋シ今夏ヨリ本土ノ行遊、其訂期再三ニ及フト雖トモ、時或ハ雨ニ碍ラレ、復且ツ予カ病メルヲ以テ期ニ違フ。遂ニ未タ志ヲ逞スルコトヲ得ス。此レヲ不快ノ事トナス。予為メニ謂テ云ク、今日ノ行、其強テ之果サンカ、発行上程シテ仮令ハ其事ヲ果スニ不及トモ、又何トカセン、天ナル耳ト。遂ニ意ヲ発程ニ決ス。早講帷ヲ撤スルノ後、諸子ヲ伴テ発舘ス。刻已ニ辰ヲ下ル。北田街（キタ、マチ）ヨリ郭外市成村（イチナリ）ニ出テ西尾（ニシオ）、朝酌、福冨、大井、諸村ヲ経テ大御崎（オオミサキ）ニ抵リ、一農家ニ乞フテ入テ休憩シ行厨ヲ弁ス。未タ正午ナラス。但疎雨屢至リ、路上泥寧、行歩亦易カラス。遂ニ上宇部尾ニ抵ル。天初晴色ヲ開ク。帰次ハ」21オ　節君（フシキミ）、蠌崕（ハクラ）二嶺間ヲ攀ツ。坂路崎嶇タリ。ソノ最頂処ニ抵レハ、則チ伯ノ大山峯（タイセン）諸山ト北海トヲ東観シ、呉湖藩城ヲ西観ス。眺瞁甚タ奇絶、実ニ推シテ近村ノ一佳一区ト謂フヘシ。行々路ノ嶮難ヲ忘ル。此レヲ下レハ上河津村ナリ。夫ヨリ西川津、菅田、諸村ヲ経テ城中ニ入リ、舘ニカヘルハ漸ク晩間ナリ。高橋春常、橋本玄淑、林春民、中沢秀圭、石井良収、林柳栄、渡辺楊亭、福島建中、清水順民、此レヲ従遊ノ子トナス。並ニ僕夫二人ヲ相供ス。但本日往返里程五里許トス。所得ノ薬品ハ左幅掲名ス。

闘牛児方言下並仝リビヤウクサ　鴨跖草カマヅカ　預知子　真香薷　大蓼　山ハツカ　馬棘　茨蓋カメガラ　馬先蒿」21ウ　細葉馬先蒿　木芙蓉　横目シバ　蛇苺　七葉ノカハラサイコ　柳葉菜　桃葉衛矛　クロキトウハイノキ又ハイモチ　地瓜児　前胡　釣舟サウ　徐長卿　爵牀　三角ツル　旋復花　百蕋草　敗醤　イヌチヨロギ　水楊梅　蓊草　荇菜　水鼈　センプリ　ゴマナ　蛇莓草　蚕繭草　マスグサ　水葱　香附子カヤツリグサ　ヒメグヽ　稗　稊　水ハコベ」22オ　ワレモカウ　カルカヤ　狼尾草　狗尾草　チカラスヽキ　ノガリヤス　雀ノヒエ　山柳　雞児腸キクナ　ノカラ松　三ツバサイコ　イヌカウジユ　秋ノキリンセウ　オトキリサウ　白山ギク　萩　沙参　馬鞭草　沢蘭　龍胆　細葉天名精　苦参　鉄掃帚　瞿麦　木防己　馬蓼　牡蒿　蛆グサ

八月幾望。家君ニ奉陪シ、学生十輩ヲ相携テ、意宇郡来海枝村菅原ニ採薬ス。昧爽舘ヲ発ス。諸子ニ乃木邨善光寺前

ニ相会ス。蓋シ本日天晴日暄、遊情佳適ナリ。ソノ行路ハ則チ野白（ノシラ）、藤名（フジナ）、湯町、林、等村ヲ歴テ来海枝村大森ト云フニ抵リ、其土豪犬山権重ヲ訪フテ休憩シ各々午餐ヲ弁ス。日殆ント午ナリ。蓋シ本土ハ藩城ヲ相距ルコト近四里程ト云フ。辞シ去テ菅原ニ行テ、本土所祭ノ菅廟ニ詣拝ス。但本廟ハ則本国一ノ名社タリ。〈俗ニコレヲ菅原天満宮ト称シテ、菅公生誕ノ地此ナリトス。全ク偽伝ナルノミ。抑菅公生誕セルハ京城西洞街松原巷トス。後世此々ニ宮居ヲ占テ恭祀ス。本所ヲ真トナスヘシ。蓋シ本国ノ俗カク偽伝スルモ、亦聊カソノ因故ナキニアラシ。シカレトモ、ソノ事モ亦タ甚タ旧シ。今将タコレヲ繹スルノ策アルコトナシ。〉夫ヨリ又旧路ニ就テ去ルコト十有余丁程ニシテ、岐シテ猶同枝村左久良ト云ニ超ユ。ソノ土ニ真言派一精舎アリ。山ヲ美瀧ト号シ、寺ヲ岩屋ト云フ。之ニ過ル境地最清潔、山林」23オ　モ亦幽森。飛泉アリ。泉甚清冽ナリ。散歩、覓草、大ニ時ヲ移ス。遂ニ下山シテ大谷村ニ越エ玉造ノ里ニ出テ、湯之介ナルモノ、家ニ就テ休ス。各々温泉ニ浴ス。大ニ疲労ヲ養フ。日已ニ西山ニ暗シ。酉刻ヲ下テ出テ、途ニ上ル。夜甚タ晴快、月亦明朗、風露未タ曽テ寒ヲ覚エス。殊更今夜ハ本月未タ値ハサルノ良宵ナリ。然トモ終日穿林渉谿、疲労且ツ加リ、吟懐亦又不発。瞬翩引袖シテ復タ湯町、藤名等村ヲ歩シ尽シテ、城鼓鐘ニ二更ヲツクル時舘ニ帰コトヲ得タリ。本日往返里程計ルニ十里慳トス。従遊ノ生ニハ高橋春常、坂根春生、橋本玄淑、石井良収、中溝玄丘、大沢仁菴、建田円琳、高橋文会、広沢三慶、坪内春洞等是ナリ。草木所得ノ者ハ其名ヲ左幅ニ題ス。

小升麻　クハトウラン　センフリ」23ウ　馬先蒿　カルカヤ　蔓荊　マヽコナ　柳葉桑　イヌハギ　山ハツカ　ヒキヲコシ　狗ノ鼻ヒケ　敗醤　石防風　シラヤマキク　白頭翁　淫羊藿紅花ヲ、ツレトキ　白花ヲ、ツレサギ　雲実　崖椒　百脉根　沙参」24オ

八月念日。天雨ラントス。本日採薬行ノ約期アリ。学生両三輩、戒装シテ登舘ス。予ヤ夙ニ起牀シテ行遊ノ諸事ヲ弁ス。シカレトモ天陰如此ナレハ此行不可果コトヲ慮ル。然リト雖トモ学生已ニ来リ遅ツ。故死灰復燃、遂ニ決意シ相牽テ発舘ス。卯中牌也。往テ春日村天王社前ニ抵レハ諸生陸続相追テ来ル。ソノ従フモノハ田代文泰、平山文礼、石井良収、中川玄意、渡辺楊亭、福島建中、六名。外ニ一武弁士高橋伴蔵、伴従ス。蓋シ本日ノ約、秋鹿郡佐陀宮内ヨ

リ長江村ニ抵ントス。但、春日、比津等村ヲ過テ生熊(イクマ)村ニイタル比ヒニシテ、天益々濃陰、雨疎々トシテ臻ル。因テ此行不可果コトヲ諸生ニ議ル。一同然リト云フ。於是遂ニ再遊ヲ期シ、反顧シテ旧路ニ依テ帰ル。遺憾ナクンハアラズ。日初禺中也。――物品所得ノモノアルコトナシ。」24ウ

九月初四日。堀子直、北尾君美、二子同伴シテ、意宇郡大庭(ヲホバ)村辺ニ採薬ス。平旦、君美来リ敲ク。相率テ発舘ス。子直ヲ誘フ。子直既ニ発宅不在。家人謂テ云ク、先チ往テ子等ト天神橋辺ニ相会スト。終ニ彼地ニ抵リ会ス。天晴美日、風暖々ニ過ク。扇子坂ヲ超テ意宇郡古志原村ニ出テ大庭村ニ抵リ、其花戸ニ投シテ園中培種セル草卉樹木ヲ品評シ、且ツ喫茶吹烟シ去テ其村隣山代(ヤマシロ)ニ抵リ、又ソノ花戸ニ入テ休憩ス。蓋此花戸ハ則園圃甚タ曠漠、方二丁許トス。霎時ニ閲シ尽スヘカラス。先ツ各々行厨ヲヒラキ弁シ、後従容散歩。遍ク所栽ノ草樹ヲ覧観ス。奇卉名木アルコトナク、只、矮松、杉、柏、山茶、橘、柚、石菖蒲、石斛等品ノ甄品ノミ多シ。又此ヲ出テ、本村一ノ名山、茶臼山ト云フニ攀登ス。古城墟タリ。高峻聳立、四眺甚奇勝ナリ。麓ヨ」25オリ嶺ニ達シテ曽テ樹木ナク、莚莫、小躑躅ナト路ニ塞ル。嶺頂ハ地平坦、短茅満敷ス。下ルハ山ノ南面ニ依ル。下レハ則チ尚山代村タリ。夫ヨリ真井飛泉(マナヰノタキ)ト云フヲ抵リ観ル。水泉甚タ清冽ナレトモ、飛泉ハ甚タ小流、見ニ不足。皆盥嗽ス。夫ヨリ上出雲郷(カミアダカイ)ヨリ矢田ニ出テ、帰途ニ就ク。日初昏黄。先ツ津田ニカヘリ一農舎ニ休ス。天看々陰蒙、雨ナラコトヲヲソル。行歩急促、家ニカヘルハ戌牌也。

花戸培栽品物

芫花　フジ梅ヒメフジ　山槌　アサマツゲ　玫瑰　地黄　山茶数十品　ヒバ類数十品　種大黄　呉茱萸　良姜　珊瑚」25ウ　棗吾一種カンツハフキト云フモノ　白花玉バ、キ白アザミ　ウロコアザミ　土常山　夾竹桃　蘭蕉　マスホノスヽキ　石芒　ハマビハ龍眼閔ト云フ

路頭得モノ僅々

烏芋　穀精草　眊蓮　沙参　竹菜　シラヤマギク　陰地蕨　白頭翁　細葉馬先蒿　前胡　独活　敗醤　紫花地丁　大葉鱧腸草

九月初五日、発舘。南郡仁多ニ採薬シ、同月十二日帰舘ス。所得品物多シ。蓋シ別ニ記行ノ在ルアレハ此々ニ載セス。」
26オ

［26ウ　空白］

弘化二年歳在乙巳

三月十一日。採薬于秋鹿郡古曽志村。相従者凡八名、橋本玄淑、星野貞白、建田円琳、渡辺楊亭、福島建中、横山玄迪、木下元清、清水順民タリ。古曽志、幡典佑ヲ主トシテ行厨ヲ喫ス。日申後舘ニ帰レリ。蓋シ得ルトコロノ品常々ナレハ名ヲ載スルニ及ハス。

三月念六日。嶋根郡加賀浦ニ採薬シ、大芦浦ヲ経テ帰ル。本日晴暄ナリ。高橋春常、坂根春生、杉玄寿、中沢秀圭、建田円琳、秋庭良亭、渡辺楊亭、横山元迪、木下元清ナト相従フ。道ハ則太田ヨリ［三字空白］ニ越ヘ山路ニ就ク。白タキト云フヲ見テ高嶺ヲ攀チ、澄水ノ瀑布ト云フヘ下リ、夫ヨリ加賀神社ニ詣」27オ　拝シ、茶店ニ休シテ行厨ヲ開ク。刻未ニ近シ。夫ヨリ大芦浦ニコヘ、阿部文洞カ留メテ置酒スルニ就キ、申刻後、小倉越ヲ帰ラントス。都テ山程ナリ。舘ニカヘルハ稍々二更ナラントス。疲労甚シ。

四月十八日。快晴美日ナリ。高橋伴蔵、中村大七、建田円琳、渡辺楊亭、横山元迪、清水順民ナトヲ引テ望楽山ニ採薬ス。辰牌舘ヲ発シ午後登山。華蔵寺ニ入テ休息ス。名刺ヲ投ス。主僧雲菴、病メルヲ以テ遇ハス。一室ヲ掃テ休セシム。行厨ヲ喫シ終ハリ暫クシテ山渓ヲ渉テ採薬シ遂ニ下山ス。帰舘スルハ初更ナリ。路小ク雨ニ遇フ。

ミヤマウヅラ　松フサ　フタリ静カ　獼猴桃　サハダチ　楓サウ」27ウ　白花タツナミ　黄連　六月菜　油点草

辛夷　楊櫨　エレサウ　百合　萎蕤　藤繡毬

五月十三日。古浦ニ採薬ス。講後発舘ス。刻辰ヲ下ル。中沢秀圭、渡辺楊亭、小池文珉、木下元清、清水順民等具従セリ。路ハ春日、生熊、佐田本郷ヲ経、帰次ハ則佐田川ニ傍フテ浜佐田、国谷ヨリ藩城ニ入ル。帰舘初更ヲ過タリ。

千金藤　ハマビハ　浜イチ葉　ハマ防風　栾花樹　布ヒキ　ハマザクラ　蛇床子　委陵菜」28ォ　ハマヒルガホ

黄花蒿　茵蔯蒿　旋復花

九月念五日、採薬遊行ス。中沢秀圭、石井良収、古川弁貞、相従フ。辰中刻発舘ス。小倉寺ニ至リ持田諸支邨ヲ東シ尽シテ、上河津ヲ経テ嵩山ニ登リ、其神社ヲ詣拝シ、下テ西河津、市成ヲ歴テ帰ル。日未タ全ク晩レス。

玉ハヽキ　龍胆　山芹菜　センプリ　匕クサ　茵芋　アリノトウクサ　カルカヤ　ワレモカウ　クハカタサウ　刺楸　タカノ爪　ゴマナ　白ヤマキク　龍脳キク」28ウ　イヌシデ　唐棣　土大黄　野ガラ松

弘化三年歳在丙午

四月初九日。晴天美日ナリ。島根郡上講武ニ採薬セントス。辰中刻発舘ス。其相従者ニハ秋庭良貞、中沢秀圭、大沢仁安、星野貞白、中溝啓斎、渡辺楊亭、古川弁貞、清水順民タリ。其帰ルハ則チ日暮ナリ。蓋シ上講武ニ至ルハ正午ナレハ、其村医桑谷養中ヲ叩テ行厨ヲ弁ス。養中茶酒ヲ以テ供給ス。得ルトコロノ草木、奇品ナケレハ畧ス。

五月十一日。快晴。枕木山ニ採薬ス。辰中牌舘ヲ発シテ、傾午時花蔵寺ニ至ル。雲菴ニ逢テ晤語ス。茶菓ヲ以テ饗ス。酉刻後帰舘ス。陪従」29ォ　スル者七子。秋庭良貞、林春民、平山文礼、林柳栄、安立寧一、福島建中、忍田玄教タリ。食茱萸ヲ得タリ。他ハ常品、枚記ニイトマナシ。

八月念八日。暁天疎雨。今日星神山採薬ノ期日ナレトモ、雨ノ為ニ止ランカ孤疑未決セス。シカレトモ、寅牌ヨリ起牀、緩々ニ戒装ス。寅中牌二三子来テ従行スル故ニ決意シテ発舘ス。途ニシテ諸子ニ相会ス。津田ニ到レハ天初テ明タリ。相従フ者、橋本玄淑、田代文恭、秋庭良貞、足高文長、岡谷東瑩、林柳栄、石井良収、星野貞白、中溝玄丘タリ。路ハ古志原ヨリ山代、大庭、岩坂ヲ経テ行ク。両或休作ス。星神山、坂路二十有一丁程。嶺ヲ極テ寺ニ至ルハ近午ナリ。〈寺ニ観音仏ヲ安置ス。本国三十三霊場ノ其一ナリ。〉帰途ハ山背艮位ヲ指シテ下ル。此坂路嶮甚タシ。程モ亦前路ニ倍シテ遠シ。艱難極レリ。下レハ則揖屋村ナリ。遂ニ東揖屋駅、逆旅ニ就テ各々労ヲ休シ行厨ヲヒラク。刻已ニ」29ウ未中刻ナリ。申刻後、逆旅ヲ発シテ帰途ニ就ク。伊ノ奥ニカヘレハ天已ニ晩ル。提灯ヲ点ス。舘ニカヘレハ已ニ初更ナリ。疲労甚シ。奇卉異品ノ獲モノアルナシ。